

名身連ニュース（H29.6.5）

第9回身体障害者安全運転競技大会が開催されました

5月28日（日）に城西福社会で、第9回安全運転競技大会が開催され、肢体障害者8名、聴覚障害者6名の合計14名の方が参加されました。

「楽しみながら、運転技術と知識を学んでいただきたい」という柴田理事長のあいさつに続き、道路交通法の学科テストが行われました。50問の〇×形式の問題で今回も難易度は高し。このテストに向けて勉強してきた方も今回は難しかったと感想を述べてくれました。

北警察署の交通課長様のお話では、愛知県の交通事故での死亡者数は14年連続全国でワースト1だそうです。交通事故死亡者数の内、65歳以上の高齢者の割合は5割を超えています。高齢になると聴覚や反射神経等あらゆる器官が衰えてくるので運転に自信がなくなったら免許を返納することも大切だと言われました。

午後からは曇一つない爽やかな天候のもと、河川敷で運転技能コンテストが行われました。8の字、狭路、縦列駐車等の8つのチェックポイントを正確にクリアすることと安全運転に心掛けているかが今回の採点基準です。どのチェックポイントも難易度は高く、特に指定されたタイヤで板を踏むポイントは皆様苦戦されていました。聴覚障害者の参加者は後部座席の手話通訳者に通訳していただいた後、運転していました。肢体障害者の参加者は「普段自身が乗っている車とは勝手が違うので車両感覚がわからず難しかった」と感想を述べてくれました。

今回も城北自動車学校のインストラクターさんのご協力のおかげで充実した大会となりました。



チェックポイント「狭路」
車両感覚が試されるポイントです。



学科試験の様子
難しく、皆さん頭を抱えています。